

解体工事 & 建設リサイクル

E-Con tecture

隔月刊 [イーコンテクチャー]
Ecology
Construction
Architecture

隔月刊 E-conecture 年6回奇数月1の日発行 通巻第79号
平成29年7月1日発行 平成19年7月6日第三種郵便物承認

自然と資源を再生し環境を創造する。

2017年 おかげさまで
創業60周年
日報

7

JULY 2017

特集1

好機？危機？ リーダーに聞く 今後の事業展望

第1部

解体工事 編

キーワードは技術・技能、ノンクレーム、安全、コンプライアンス etc.

第2部

建廃処理 編

建廃減少時代の到来が近い？事業の常識が一変する？

特集2

更なるプロの極みへ！ 石膏ボードリサイクル

用途開拓と技術革新…ボードtoボードからセメント、農業、固化材まで

[E-Con インタビュー]

分岐点を迎える今、新会長に就任

技術・安全面はもちろん、後継の育成に注力

石川県構造物解体協会 会長 / 株中部資源再開発 代表取締役社長 今村秀憲氏

ガイドライン策定に向け始動 土質改良系固化材の利用促進がテーマ

● 再生石膏粉の有効利用ガイドライン策定委員会

再生石膏粉は、土木工事向けの固化材、農地の土壤改良材、セメント副原料、ボードtoボード等のリサイクルが進められているが、硫化水素の発生、フッ素、ヒ素、カドミウム等の溶出の恐れに対して、科学的根拠や法令等に基づいて確保されておらず、その担保は業者ごとの論拠による部分が多く、行政機関やユーザーである建設現場から評価されにくい状況にある。

このような背景を踏まえ、国立研究開発法人国立環境研究所が主体となり、福岡大学、愛知工業大学、(株)日本能率協会総合研究所、(一社)泥土リサイクル協会が参画する環境研究総合推進費において、2017年度から2年間にわたり、「廃石膏ボードリサイクルの品質管理の在り方と社会実装」の研究を行うとともにガイドラインを策定するための委員会が組織された。委員会では、再生石膏粉の品質検査プロトコルを提案し、廃石膏ボードリサイクル業界の自主ガイドラインを作成することで信頼性を向上させ、廃石膏ボードのリサイクルシステムを形成させる。

全国石膏ボードリサイクル協議会(太田敏則代表、事務局・(一社)泥土リサイクル協会、☎0587-23-2713)では、全国からサンプリングした再生石膏粉の基礎的な知見を整理しており、同委員会に参画することで再生石膏粉(二水、半水、無水)の土質改良用固化材としての適用性を検証するためのサンプリング提供や情報交換を行い、ガイドラインの骨子策定に寄与するとともに完成したガイドラインに基づいて協議会の企業メンバーが実装して、PDCAを回しながらガイドラインをブラッシュアップさせていく。

事務局の泥土リサイクル協会の西川美穂氏は「ようやくスタート地点に立った。ガイドラインの策定に当たっては、廃石膏ボードの中間処理業者、固化材メーカー、そして利用者と、様々なステークホルダーとの調整は必至で、最初から誰もが納得するものを作ることは難しい。まずは、原案としてのガイドラインを作成し、様々な意見をいただきながら修正・改善を進めていくことが重要」と話した。

メインテーマ：廃石膏ボードリサイクルの品質管理のあり方と社会実装

サブテーマ1：再生石膏の地盤利用における環境質の制御(国立環境研究所)

サブテーマ2：再生石膏の地盤利用における工学的ベネフィットの検証(福岡大学)

サブテーマ3：再生石膏粉の品質管理に関する検討(愛知工業大学)

サブテーマ4：再生石膏のマテリアルフローと他分野を対象とした需要量・経済効果(日本能率協会総合研究所)

サブテーマ5：環境安全品質ガイドライン策定によるリサイクルシステムの社会実装(泥土リサイクル協会)